

令和元年度 卒業式式辞

日ごとにあたたかさを増し、桜門の桜のつぼみもふくらみ始めた今日のおよき日に、松原市立天美南小学校の第51回卒業生として本校を巣立つ59名のみなさん、ご卒業おめでとうございます。

みなさんは、この3月をどんな風に過ごしたでしょうか。私はまず、夜に目を覚ますことが多くなりました。そして、子どもたちのいない学校に来て、心にポツカリと穴が空いたような寂しい気持ちになりました。

3学期の初めに、6年生のある子に『何のために学校に来るんや?』と聞いたところ、即答で『友達に会えるからや!』という答えを聞いて、心から嬉しく思いました。そんな友達と過ごしたかけがえのない6年間の、最後の1ヶ月を奪ってしまったことへの申し訳ない気持ちでいっぱいでした。

しかし、6年間のまとめや卒業式の練習、友だちとの別れを惜しむことが出来なかったからといって、みなさんが仲間と過ごしたかけがえのない時間や、築いてきた絆がなくなるわけではありません。その事を示してくれたのが、みなさんが登校する最後の日となった2月28日のお別れ会でした。

実行委員が中心となって企画した出し物。「1年生のパワフルパワー」、「2年生のスイミー」、「3年生の「私と小鳥と鈴と」の暗唱、「ふるさと」のリコーダー演奏」、「4年生の「旗体操」、「生きてこそ」、「5年生のソーラン節」、そして6年生の運動会の団体演技、修学旅行など、一人ひとりの個性を見事に表現し、6年間の思い出を凝縮した感動的なステージを作ることができました。笑いの中にある仲間へのあたたかい気持ちを感じ、胸がいっぱいになりました。みなさんの合唱や演奏、ダンスや演技はとても上手です。でも、単にうまい、というだけではなかったと思います。みなさんは日常生活でイヤなことやもめ事があっても、決してあきらめないで『仲間とつながる』ことを大切にしてきました。その仲間のことを思う優しく温かい気持ちがハーモニーとなり、多くの人を感動させることができたのだと思います。

卒業生にとって、そして私にとっての小学校最後の授業をします。

m o o n s h o t

 なんと読むでしょう?

私は子どもの頃、野球が好きで、理科が好きでした。夜バットをもって、外に出て素振りをしてながら空を見上げると、西の空にとっても明るく輝く星を見つけました。(ちょうど今も見えています。何という星かわかりますか?) 次の日、学校に行って先生に聞くと、「それは金星といって、太陽の光を反射してとても明るく輝く星で、宵の明星とも言われるんだよ・・・そのあと、冬の大三角形のこと、オリオン座のベテルギウスがもうすぐ死んでしまうこと」など、星のことをいっぱい教えてくれました。

その時に、アメリカがアポロ計画といって、人類を月に行かせる計画があるということも教えてもらい、その時は「それはないやろ～」と思っていた次の年、アポロ11号が月面に着陸したのをテレビで見て、驚いたのを覚えています。この「月へのロケットの打ち上げ計画」をムーンショットといいました。

このことから、「とても実現するのが難しいことだが、実現させることができれば、人類にとってすばらしい成果が得られる計画や挑戦のこと」を言うようになったそうです。

みなさんにとっての「moon shot」=かなえたい夢や目標は何ですか? 人類が月へ行くには、たくさん

の人の苦労や失敗の積み重ねがあったと思います。でも、気持ちをひとつにできる仲間がいたからこそ、達成できたと思います。みなさんも 夢や目標をもち一步一步進んでください。失敗をしてください。必ずプラスになります。しんどくなったら「助けて」と言っていいんです。キミたちなら、きっとできます。

最後に、この卒業式はこれまで育ててくれた家族やお世話になった人への感謝の意味もあります。お家の人や地域の方は、みなさんの成長した姿を卒業式で見るのを心から楽しみにしていたはずです。今日、家に帰ったら「12年間育ててくれてありがとう」という気持ちを自分の言葉で伝えてください。そして、中学校生活が始まるまでの間、家族との時間を大切にしてください。

「さあ！」卒業生の皆さん、いよいよ旅立ちの時が来ました。

最後に送った言葉、「ムーンショット＝月に向かってロケットを打ち上げよう」を胸に刻んでください。

みなさんの大いなる活躍を期待するとともに、この場に参列することができなかった、ご来賓の皆様、保護者の皆様に、心よりお詫びと感謝を申し上げ、わたくしからの式辞といたします。

令和2年3月18日 松原市立天美南小学校長 北本 正俊